

武漢事務所週刊ニュース (2016. 7. 16-2016. 7. 22)

2016年7月16日

東風本田、年内に第三工場新築予定

東風本田の関係者によると、当会社は月に6万台近くの注文を受けるが、生産能力は僅か4.5万台ほどしかなく、「もし今あなたが1台の車を注文しても、2ヶ月後にならないと受け取れない」ほど、生産能力不足が明らかだ。

東風本田は、2020年までに80万台の生産能力を備えれば市場の需用を満たすことができると考えている。現在、当会社の第1工場、第2工場の生産能力は約48万台であり、すでに生産能力の拡大を始めている。

2014年、東風本田第3工場が環境影響評価を経て建設を許可された。計画によれば当工場の投資額は55.1億元で、SUV、セダンと電気自動車の生産が可能で、生産能力は24万台だ。2015年には、土地均しを済ませていたが、突然建設を遅らせるという情報が広まった。

東風本田の関係者によると、第3工場建設計画は2013年に年東風本田設立十周年の際に打ち出されたもので、東風本田の中期事業計画に基づき2023年までに自動車総量を100万台に引き上げることとしていた。事業計画を発表した翌年の2014年の販売量は僅か30.8万台で、2013年より4.1%下がり、35万台の年度販売目標を達成できなかった。このような販売量の下降が第3工場建設計画を行き詰まらせることとなった。

2015年から東風本田の販売量は増え続け、第3工場の建設が目前に迫ってきた。生産能力不足の問題はすべて非常に深刻となっている。東風本田自動車シリーズの中で、シビックだけではなく、XR-V等の車種も供給不足が存在しており、生産ラインのコントロールだけでは問題の根本を解決することはできない。関係者は「今年の内には第3工場建設工事に再着工し、何とか2018年までに生産が出来るようにする」と明かにした。

2016年7月17日

東西湖区の13億元投資プロジェクトが予定通り始動

これは福建友誼集団が投資した武漢友発新材料プロジェクトで、2017年末に竣工する予定。プロジェクトが出来上がれば、双方向ストレッチポリプロピレン(BOPP)の生産は12.8万トン、工業特殊テープの生産は7万トン、年生産高は19億元で年税込額は8000

万元以上となる。

武漢臨空港開発区の曹書記によると、プロジェクトは当該地区に産業結合調整を加速させ、新興産業を育て、工業を拡大させるなどの重要な意義をもつとのことである。

情報によると、武漢臨空港開発区は前期、豪雨の衝撃を受け、全区の排水量は3.1億立方メートルであり、これは約三つの東湖の水量に匹敵するほどの量であった。工業園区内に水が溜る事で休業、生産停止する企業は一社もなく、豪雨により生産経営に深刻な影響を受けた企業も一社もなかったという。